

## 会議録

会議の名称	第3回加東市社地域小中一貫教育推進協議会
開催日時	平成27年12月9日(水) 19時00分から20時35分まで
開催場所	社中学校 1階 会議室
<p>議長の氏名 (委員長 佐々木正利)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p><b>【出席委員】</b> 22人</p> <p>佐々木正利委員 稲継俊文委員 山本弘委員 西嶋孝夫委員 津田美紀委員  別惣裕美子委員 長濱一間委員 吉田嘉彦委員 上月政美委員 壺井勇作委員  松岡達哉委員 肥田繁樹委員 井上学委員 田邊浩一委員 伊藤倫之委員  岸本吉博委員 田中寿一委員 神戸成企委員 土肥貴雄委員 木村裕司委員  岡敏久委員 松岡博文委員</p> <p><b>【欠席委員】</b> 5人</p> <p>樹梨林三委員 堀口豊文委員 三村貴之委員 松本祐二委員 小林茂委員</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p><b>【教育委員】</b></p> <p>神崎芳美教育委員 浅川るり教育委員</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育長 藤本謙造  教育部長 堀内千穂  教育総務課 課長 大橋博英  同 副課長 柴崎俊之  同 主幹 山本幸平  学校教育課 課長 登光広  同 副課長 平川真也  同 主幹 藤原良二</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p><b>【議題】</b></p> <p>(1) 先進校視察結果について  (2) 課題の整理と対応方法について  (3) 今後の協議の予定について</p>	

## 【会議結果】

- (1) 資料①に基づき、審議しました。
- (2) 資料②から④に基づき、審議しました。
- (3) 今後の協議の予定について、審議しました。

## 【会議の経過】

### 1 開会

### 2 協議

#### (1) 先進校視察結果について

〔事務局説明〕

(委員長)

今、問題になっている少子・高齢化の中で、社会性に欠けている子どもたちが出てきたということと、現状の教育制度で問題になっております中1ギャップ、そういうものを解消していきたいという思いで、先進校でいろいろな取組みを地域と一緒にやっておられるというのを私も視察で目の当たりにしまして、なかなか良い取組みで、加東市でやろうとしている小中一貫教育が間違っていないという思いを強くしたわけですが、先ほど事務局が言われたように、皆さん方から視察の御意見をいろいろ伺いたいので、順番に御発言をお願いします。

(委員)

私は、凌風学園に行かせてもらったのですが、学校はすばらしく、施設の立派さにまず目を奪われました。たぶん、東山開晴館も開校年度は1年しか変わらないから、同じようにすばらしいものであるとは思いますが、まずそれがものすごく驚きました。それと、実際、中にいる子どもたちがものすごくあか抜けていて、生き生きしているのが大変目につきました。また、今までだったら大体1階にある特別支援学級が各学年のフロアにあるというのが、すごいことだなともものすごく思いました。

(委員)

私も東山開晴館に行かせていただいて、最初の印象としては、生徒たちが声が大きくて、はつらつと元気がよかったです。各教室に回らせてもらったのですが、別に走り回ったとかという意味ではなくて、活気があるように思いました。それと、休憩時間に中学生3年生ぐらいの生徒が、手とり足とり何かやっていて、こういうこともできるんだなと思いました。あとは、今、言われたように設備はかなり良いです。つくるのであれば、あのような建て方が良いなと第一印象で思いました。他にもたくさんありますが、この社地域で一貫校とするなら、あのような校舎を建てていただきたい。また、私は視察も何回も行けばいいと思いますので、そのような場をもう1回、2回、つくっていただきたいと思います。

(委員)

私も東山開晴館に行かせてもらいました。施設がすごくよかったのが本当に第一印象ですが、開放的なので、子どもたちも開放的に見えたし、校長先生や理事長さんの自信がすごくあり、あれだけ自信を持ってされたら良いものができるのだろうなと思いました。つくることに皆が同じ方に向いていたら、良いものができるのではないかなと思いました。結局、子どもたちは、まだ心がきれいなので、施設ができれば子どもたちは素直に入ってくるので、皆でつくれたら良いことになるのでは

ないかなと思いました。

(委員)

私も東山開晴館のほうに行かせていただきました。先ほど委員がおっしゃったとおり、校長先生と理事長さんですか、地域の代表の方がすごく熱心にやっていたらっしゃるんだなというのをすごく感じまして、やはりリーダーシップをとれる方が上に立っているというのは、これだけ力があるんだなと私も感じました。建物も新しく、すごくオープンな感じの学校でした。最初に入ったのが玄関だったのですが、下駄箱がいわゆるボックス型ではなくて、棚自体がオープンだったのが印象的で、すごく明るく、通路もすごく広くて、全体的にすごく開かれた印象を受けました。施設の中で私が一番印象に残っているのは、図書館、メディアルームという名前がついていましたが、そこが吹き抜けですごく明るくて、子どもたちがすごく集まりやすい明るい雰囲気があって、そういう場所が自分の学校だと子どもたちもすごく誇らしい気持ちになれるのではないかなと思いました。

(委員)

私は凌風学園に行って、校長先生をはじめ、お話を聞かせていただいて、凌風学園でされているようなことが加東市のほうで実現できれば画期的なことだとは思いました。施設のほうもいろいろ設計時より工夫を凝らしていらっしゃったようなので、その辺も含めて現場の方の意見を参考にされたらいいのかなと思います。

それから、まだまだ地域ですとか、そういったところの課題等もあるとは思いますが、そういう協議会の方、委員の方、私たちも含めて頑張っていけないといけないこともあるのではないかなと思います。

(委員)

私も凌風学園のほうに行かせてもらいまして、まず子どもたちに対して先生が規律について厳しく徹底されていたので、そこは普段からしてもらったらいと思います。建物も大分近代的な建物で、まず自分が通いたいなというのが率直な意見でした。

ただ、やはり町なかということで運動場が狭いところがありました。加東市ではそういうことはたぶんないとは思いますが。あとは通学です。どうしても加東市のほうは距離が長くなるので、その辺の課題が今後残されているのではないかなということと、9年間を見据えてというところがあるのですが、先生方が大変な努力をされているのではないかなということも見えましたので、今後はそういうところを課題で取り組んでいけばいいのではないかなと思いました。

(委員)

私は凌風学園のほうに行かせてもらいました。皆さんがおっしゃっておられますとおり、やはり施設はかなりすばらしいです。これは、たぶん誰が見られてもそう思われると思います。先生方も一つの目標に沿って、卒業までの最終ゴールをはっきり見据えて、最終的にどう持っていくかというのを考えた上でされているということで、修学旅行先が社会体験みたいな形になっていて、普通は観光地なんですけど、そこまで徹底してやられているというので、一貫したポリシーを感じました。

また、保護者とも一体になってやられているということで、各教室のほうで分担し、役割をつけてやっておられて、そういうのもよく考えてやられているのかなというふうに思いました。

あとは、それだけ先を見据えて、いろいろなプログラムでおられるので、当然、先生方は非常に大変ということは校長先生自らも言われていましたが、そういったことも含めて、やっていくにはそれなりの覚悟が必要だということと、子どもたちにつきましても、言われておりますとおり、皆、元気がありますし、廊下に貼ってあるポスターも普通貼っていないようなポスター、就職先であるとか、他校の紹介の

ようなポスターが貼ってあり、こういったことも徹底してやっているんだなと思いました。やはり最終的にはゴールを見据えて、目的に一丸してやっていかないとうまくいかないのかなということを思いました。

(委員)

私も凌風学園のほうへ視察に行きました。前の会議で、地域の大小などは関係ないという話があったので、本当かなというふうな疑問が少しありましたが、実際に学校に入ってしまうと、その部分は、地域の大きい、小さいとかに関係なく、結局、その学校をどういうふうにしていきたいのかをしっかりと考えていけば問題ないのかなと思いました。

あとは、一部の先生の負担が大きいということを校長先生も言われていたと記憶しているのですが、やはりそのあたりをどうしていかないといけないのかというふうな部分も課題かなと思いました。

(委員)

私は、東山開晴館に行かせてもらいました。皆さんとほとんど同じ意見で、校長先生の強いリーダーシップと地域の深いつながりがありましたが、小中一貫をやらない未来とやる未来を想像したら、やったほうが良いということを再確認しました。

(委員)

私は東山開晴館のほうに見学させていただきまして、印象に残ったことは、先ほどから校長のリーダーシップの話をしてありますが、合併前から合併後の5年間異動なく、常にその段階に応じて対応されてきたことが非常に効果的に働いているのかなというように感じました。

それから、東山開晴館も複数の小学校と複数の中学校が合併して開学されていますけれども、まずは小中一貫校とは別に小学校の合併、それと中学の合併、その合併問題のほうを先に解決した後小中一貫のほうに歩を進めてきたということで、小学校の合併問題をのけて解決されたのが非常に印象に残りました。

(委員)

私は、東山開晴館のほうに行かせていただきました。皆さんがおっしゃったとおり本当に、いろんなことを聞いて考えているよりも見るほうが早かったなというように思っています。いろいろな話を聞かせていただいたのですが、やはり子どもにとって環境は大事だなということを改めて確認をさせていただいたと思っています。いろいろな苦労があり、いろいろな課題があるというようなことは、もちろんありますが、そういったことはのけて、あのような環境を子どもの前に用意していくということは、乗り越えていかなければいけない苦労とか課題とかがあるかもしれないけれど、やはり用意してやりたいなという思いを改めて強く持ちました。

(委員)

凌風学園のほうへ行かせていただいたのですが、施設は皆さんがおっしゃるとおりすばらしいもので、小中一貫をするために必要な建物を建てたということだろうと思います。ですから、教室が余っているから図書室をつくったとかではないので、非常に使い勝手が良く、子どもたちにとったらプラスだろうなというのは、どのところでも見ました。非常な配慮で、上の中学の3年生、2年生には音が聞こえないように防火シャッターを閉めて、下からの騒ぎが入らないようにしており、また、小さい子も入るので階段が非常に低くしており、それも今あるものでなくて、そういうところに配慮しながら物を建てたということが非常にいいところだと思います。

この春から小中一貫でやりますとあって、その狙いはということになってきますと、なかなか話が決まらないだろうと思います。やはりその前の年からきちんとそ

の学校での教育目標等を立てていきながら、33年開校の春には職員全部がそろっていけるというような体制をつくっていくことが必要で、少し前からそういう体制をつくっていかないといけないということを、職員の数を想像しただけでもかなり多くなるので、そこはこれからの課題かなというふうに思いました。

(委員)

私は凌風学園へ視察に行かせていただきました。

まず、もう子どもにとってベストの環境になっていて、いろいろな面で工夫されていたので、行ってびっくりしました。以前に堺市のさつき野学園というところに行かせてもらいましたが、やはり一体型が良いということを直感しました。同時に、子どもたちの様子、やはり肌で感じるものがある、落ちついているのと、それと廊下に、実は上の学年から下の学年、下の学年から上の学年への手紙が貼ってあり、縦のつながりがすごくできている証と思って実感しました。そして、中学生と小学校の低学年が、うまく9年間のステップの中で学習し合って、生活面での学習、社会性もプラスになっているということで、良いなという感じがしました。それが一番強烈に、インパクトが強かったです。

(委員)

凌風学園へ行かせていただきました。

ソフト面は、準備もきっちり進めていきながら、実際やる中で評価を加えて、改善もできますが、ハード面は、今、皆さんが言われたように、建てたら、なかなか変えられないところで一番重要と思います。特に凌風の場合、光と風を取り入れた開放的で機能的な施設がすばらしかったと思いますし、いろいろ実際の子どもの役割とか、できることできないことを考えた、そういうルーチンとか、それから小学生と中学生の動線とか、その辺まできっちりと考えられているのは、すごく大事な点かなと思いました。皆さんの知恵をよく出し合って考えて、しっかりした施設をつくれれば、後々、教育活動も進めやすいので、一番大事なことだと思います。

(委員)

私は、東山開晴館のほうへ行きました。

施設に関しては、皆さんと同様です。私が一番強く感じたのは、職員室を見たときです。小学校と中学校の先生の席が一同にあって、それこそ、それを小中の接続だとか、あるいはお互いの子どもたちのためという話し合いの場がそこにある。それが子どもたちにとって非常にいいことだなというふうに強く感じました。

それから、子どもの活動が見たかったなというところがあります。中学校でもトライやる・ウィークで、いろいろな保育園とか幼稚園とかへ子どもが行くのですが、そういったときにすごく良い表情というか、優しい表情をして子どもたちに接しているということをよく聞きます。そういう姿が実際に見ることができたらうれしかったなという思いもしています。

(委員長)

皆さんの御意見を伺いまして、全体的に小中一貫教育に対する考え方というのか、そういうものについて理解が深まったということのを非常に言われていたかと思いますが、中には通学の問題とか、課題も加東市の場合にはあるのではないかなというような御意見がありまして、課題が何点かあると思います。そういうことで、課題の整理と対応方法について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

## (2) 課題の整理と対応方法について

〔事務局説明〕

(委員長)

今、課題の整理と対応方法についてということで、組織やスケジュールにつきまして、資料の②、③、④で御説明をいただきました。これから皆様方の御意見をいろいろ伺いたいと思いますが、仕切りとして、私のほうから1つだけ要望というか、意見を述べさせていただきます。まず、資料の②の中にありましたが、情報の開示ですね。先ほど言われましたが、高松に行くとか、いろいろなところに出かけるというのは良いのですが、どうしても市民の皆が行きませんので、広報あたり使って、そういう情報をいかに開示していくか、それも1年に1回とか2回とかではなく、できるだけ数を多くして、市民の皆様方に御理解をいただけるような行動を起こすことがベターではないかと私は思っています。それについて、いかがでしょうか。

(事務局)

おっしゃるとおりだと思います。先ほど申しあげました説明会も必要とは思いますが、それ以上にもっと頻回に、広報やホームページで、議事録はもちろん公開しますが、今はこのような状況ですといったことも含めてどんどん公開していくべきというふうに思います。情報提供させていただいて、共通理解を進めていくことは大事だと思います。

(委員)

小学校区の代表区長ということで声がかかって出ていますが、この計画が5年計画ということになりますと、委員会の構成に入ったとしても、一応1年ごとの交代になるのですが、その辺はどうですか。

(事務局)

当然、役職は任期がございまして、1年ないし2年とかということで変わられるのはわかっております。先ほど言いました小中一貫校の準備委員会という組織は、代表者によるものになりますので、1年ごとの任期で委員がかわられると思っています。ただ、下の各部会があるのですが、退任される方においても、それぞれの興味であったり、お得意の分野とかがありますし、先ほど申しましたように、5年かけてみんなでつくっていく学校というようなことを考えておりますので、是非、部会のほうへ残っていただき、たくさんの方々に関わっていただきたい、それも長く関わっていただきたいという思いがございまして。

したがって、準備委員会の役付けの方については、当然1年、2年ということはある得ますが、部会のほうは最後まで一緒に、校歌をつくってほしいとかというような思いがあります。それによって、学校ができた後も、はい終わりではなくて、その方々に引き続き学校の応援団であり続けていただきたいなという思いを持っております。

(委員)

資料②の課題で、施設・設備の施設形態につきまして、一体型か併設型かということで、まだ併設型の選択の余地が残ってはいますが、非常に大きい問題であると思います。併設型を選択せざるを得ない場合、そこには当然、課題があると思いますが、それが、いわゆる建物に問題があるのか、土地の問題であるのかなど、その辺はどのように、今、実態としてお考えなのでしょうか。

(事務局)

去年に小中一貫教育をやりたいということを発表させていただいたときに、特にこの社地域については、社中学校自体が比較的新しい建物なので、併設型でやればどうかという提案はさせていただいておりました。建物の問題という部分にはなっていないかなとは思いますが、ただ、先進校へ行っていただいて、今、皆さんから、やっぱり一体型が良い、職員室が一緒に良いという話がどんどん出てきておりますので、そういう意見を尊重して、例えば社地域でも一体型はあり得るのかなというふうな思いではございます。そういったところについて、どんどん意見を出してい

ただきたいと思います。

(委員長)

社中学校の耐用年数は、どれくらいですか。

(事務局)

社中学校を設置しましたのが昭和53年で、一応、学校関係の施設の耐用年数は47年と考えておりますので、満了年としましては平成37年というふうに思っております。

(委員)

部会の委員を選ぶ場合、各地域、校区別の若い方、いろいろ携わりたい方々もおられると思います。私たちも年齢がいきますし、やはり若い方の力というのは必要だと思いますので、考えていただきたいと思います。

(事務局)

学校の応援団は全ての方ですので、若い方の御意見、特に未就学児の保護者や卒業生、これから親になる方など、いろいろな方たちがいますので、先ほども申しましたように地域や各団体からの推薦であったり、例えば校歌をつくるのであれば公募や音楽堪能な人などというようなことがいろいろ考えられると思います。

いずれにしても、先ほどから言っていますように、地域の応援団をつくるための部会という捉え方もありますので、広く組織をつくりたいと思っております。御意見ありがとうございます。

(委員長)

先ほど、社中学校を一体型にするか、併設型にするかというような話も出ましたが、当面の予定は東条、社、滝野という順番で、社地域の皆様方としてその順番で良いものかどうか。例えば、先ほど言いました耐用年数があまりないのであったら、早くしても良いのではないかというような御要望などはないですか。東条、社、滝野の順番どおりでよろしいですか。その辺の御意見もお伺いしたいのですが、どなたか御意見はないですか。

(委員)

子どもたちにとって本当に良いものであれば早く準備をしてやりたいという思いはあります。行政として一度に3つ同時に開校というわけにはいかないのですが、その辺の調整はしていただかないといけません。同じ加東市内ですので、できるだけ差異がないように、一年でも早く進めていただくのが、良いと思っています。

(委員長)

1校を開校した後、2校目、3校目はどれくらいの間隔があれば良いのですか。

(事務局)

もちろん財政的な面もありますが、おそらく建てるのに、1校当たり2年から2年半はかかるとお思いますので、やはり最短でも2年くらいはあけていかないと無理なのかなという思いはございます。

ただ、滝野地域でも、当初の計画では滝野地域は平成40年開校ということで、そんな何年も先になるのかという話も出て、やるならもう少し早くしてほしいという御意見はいただいております。

(委員)

3校建てるのではなく、市全部で1校とはならないのですか。どうせなら1校良いものをつくったほうが良いのではないのですか。

(事務局)

今、加東市の小、中学校の子どもたちは約3,000人です。

1つにするとかなりの人数になって、それこそ本当に大変なので、それぞれの地域性も考えると、今、私たちが提案しているようなところでどうかと思っています。

(委員)

2校であればどうですか。難しいですか。

(事務局)

3地域で素敵な学校をつくりたいという思いも持っていますので、そのために皆さん方にいろいろな課題をどのように解決していくか、皆さん方の意見をいただきながら、その地域にあった学校に、そんな思いでいます。

(委員)

小中一貫校に前向きな保護者が早く行かせたいと思っても、他地域にできた小中一貫校には行けないですね。

(事務局)

現時点でそれも可能ですとは言えません。

ただ、今、委員がおっしゃったように、市内で差異があるのは、教育行政としていいのかということで、財政的な話もありますし、教員の人数もありますが、一刻も早くという思いはあります。ただ、3校を一度に建てるのは、物理的には無理だと思います。また、3校建てるということが地域を大切にすることにつながるだろうと思っています。

(委員)

社地域を平成36年開校とすれば、準備委員会を組織するのは31年からということですか。

(事務局)

そうですね。

委員長。4回目の会議で、例えば開校順であったり、開校場所であったり、施設はもう併設型というより一体型がやはり社としては当然良いのでしょうか、というようなことをお聞きしようということで、事務局から提案しようと思っていたのですが、それがずっと出ております。ただ、それぞれの団体を代表されており、いろいろな思いもあると思いますので、一度、次回のスケジュールをお話しさせていただいた上で、御意見を交わしていただくか、もしくはこれで終わって、それぞれ持ち帰るというようなことではいかがかと思えます。

(委員長)

次回、そういうお話があるようでしたら、前もって地域の方と意見調整をして、活発な御意見をいただいたらという思いもありますが、説明をお願いします。

### (3) 今後の協議の予定について

〔事務局説明〕

(委員)

ひとつ聞きたいのですが、今年の夏の学習塾での説明後、東条が一番ということにこだわらないと市長が言われた話はどうなったのですか。

(事務局)

新聞の見出しにあのような出方をしてしまったので、少し誤解が生じている部分があります。

子どもの減少割合の状況で、特に東条西小学校は、昨日、意見が出ていましたが、来年の入学者が5人くらいになるような状況になってきています。また、東条の西小学校区、特に就学前の保護者からは、何とか早くしてほしいというような意見も7月5日の説明会で出ておりました。そんな中で、東条でもそういった署名活動も起こったりしてきております。元々、東条が最初ということで出ていましたが、コスミックホールなどのこともあって反対もあり、どうしても難しいようであれば社になっても仕方がないというような発言を市長はされました。ただ、思いとしては、

また子どもの減少割合などを鑑みて、やはり必要性から考えると東条が先ということで、教育委員会でも市でも東条、社の順番が望ましいというような方向性が今は出ておりますので、社から先にやりますという決定ではなかったです。

(委員長)

望ましいということで、100%決まっているということではないです。

(委員)

望ましいということだったら、社が先でも良いと思います。

(委員長)

いずれにしても、保護者の皆さんも先生方も早くという思いはありますので、当初予定の平成33年から40年度で終わるというのではなく、もっと前倒しになるのではないですか。

2年ごとなら平成33年に1校、プラス2年で35年、さらにプラス2年で37年に終わるという話ですね。いかがですか。

(事務局)

先ほどありました財政的な話と、教員の配置の絡みもございます。やはり、教員をどういうふうに配置していくかということも非常に重要な問題ですので、その辺も踏まえながら決めていかないといけないというふうに思います。

(委員)

今、小学校ごとにアフタースクールがありますが、小中一貫校になるとどのようになるのですか。遠いところの人も皆一緒のところに行くようになるのですか。どのように考えておられるのかを教えてください。

(事務局)

アフタースクールについては、現在の場所を起点にするべきでないかというふうに今、考えております。通学の方法とも関連してきますが、例えば行きはどこかで集合し、スクールバスに乗って通学し、帰りはアフタースクールを利用する子どもはアフタースクールで降ろすなどというふうな形が良いのかなという思いもありますので、今、実施している場所で今後していくという方向と考えてございます。小中一貫校になったからといってアフタースクールも一緒にするという事は考えてございません。

(委員)

それでは、その子どもたちはアフタースクールまで移動して、それを誰かが見守りをしてくれるということですか。

(事務局)

そのあたりは、専門部会等の中でもいろいろな話が出ると思います。専門部会の方々の御意見を聞きながら、また、アフタースクールのこと考慮しながら、送迎等も考えていけたらと思います。

(委員)

京都の先進校は比較的校区が狭いので、ある程度その地域の一体性があると思いますが、社は遠くて、地域というにはあまりにも離れ過ぎていて、なかなか地域の方が施設を利用するにも、車に乗らないといけないし、しんどいところがあると思います。現在の小学校の校舎を後、地域でどのように活用していくのか。子どもをどのように育てていくのかという会をつくったりし、その活動の拠点に旧校舎を使わせてもらうなどという話があるかもしれません。そういうことから、今ある現在の旧校舎について、何かお考えがあれば聞かせていただきたい。

(事務局)

去年から出ております公共施設の適正配置計画の中では、旧の校舎については、地域のコミュニティー施設としてその後も利活用していくというような考え方で

おります。ただ、例えば小学校で2棟あったら、全部使うわけにはいかないので、減築というふうに言っていますが、減築はあるにしても何らかの形でコミュニティー施設、そしてまた防災拠点、避難場所としても活用したり、防災備蓄倉庫としても活用したり、地域のコミュニティーの拠点にすべきではないかというふうな計画としており、今もその部分については変わってございません。ただ、どういう活用方法が良いのかということは、それも含めて地域の中で一緒に考えていけたらということです。

(委員長)

意見も大分出そろったみたいですけど、この準備委員会といいますか、やはり年がいったときに対応できないというようなことがあります。地域の応援団として部会に入って活動してほしいというお話がございました。私も応援団的な存在でやっていきたいなと思っておりますし、皆様方も是非そういう形での協力をお願いしたいと思います。

先生方におかれましても、定年になられる方もいらっしゃると思いますが、先ほど言いましたような意味合いで参画していただいて、良い学校づくりに尽力いただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

### 3 閉会

#### 【資料名】

資料① 先進校視察結果について

資料② 課題と対応方法について

資料③ 加東市小中一貫教育準備委員会組織 (案)

資料④ 小中一貫教育準備委員会等教育施策 行程表 (案)

平成28年2月9日